

概念系の数学的構造について  
——FCA とその周辺の研究から——

浅野将秀（首都大学東京）

首都大学東京論理学・数学の哲学研究会

@首都大学東京 2018 年 12 月 19 日

※ 2019 年 1 月 発表時の質問・コメント等に基づいて一部加筆・修正

## はじめに

- 本発表は [Zhang2004] で与えられる結果の大枠の紹介である.
- 発表中の定理等の番号は特に断りのないかぎり [Zhang2004] のもの.
- 話題：情報科学における重要分野である
  - Chu 空間
  - 形式概念分析 (FCA) / 概念束
  - ドメイン理論 (とくに, 情報系 information system の概念)の基本的な関係.

# アウトライン

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## 1 登場人物

### ■ Chu 空間

- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## Chu 空間

- Chu 空間：次のような三つ組  $P = (P_o, \models_P, P_a)$  のこと。
  - $P_o$  : 「対象」の集合
  - $P_a$  : 「属性」の集合
  - $\models_P \subseteq P_o \times P_a$
- 色々な呼び名：
  - 「分類 classification」(チャンネル理論)
  - 「(形式的) コンテキスト」(FCA)

	$a$	$b$	$c$	$d$
1	✓			
2		✓		✓
3	✓	✓	✓	
4	✓	✓		✓

## Chu 写像

- 2つの Chu 空間  $P = (P_a, \models_P, P_a), Q = (Q_o, \models_Q, Q_a)$  を考え,

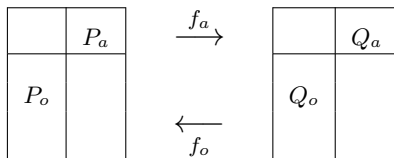
$$f_a : P_a \rightarrow Q_a$$

$$f_o : Q_o \rightarrow P_o$$

とする.

- このとき, (\*) が成り立つ  $(f_a, f_o)$  を  $P$  から  $Q$  への Chu 写像と言う.

$$(*) \quad \forall x \in P_a \forall y \in Q_o (f_o(y) \models_P x \Leftrightarrow y \models_Q f_a(x))$$



- チャンネル理論の「情報同型写像 infomorphism」は Chu 写像のこと.

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## 形式概念分析 (FCA)

- Chu 空間の形で与えられたデータを順序論的に分析する手法のひとつ.

- 基本となる操作：

内包操作  $\alpha(B) = \{a \mid \forall x \in B (x \models_P a)\}$  ( $B \subseteq P_o$ )

外延操作  $\omega(A) = \{o \mid \forall x \in A (o \models_P x)\}$  ( $A \subseteq P_a$ )

- (形式的) 概念の定義：「外延と内包の統一」

$A \subseteq P_a$  は (属性) 概念である  $\Leftrightarrow \alpha \circ \omega(A) = A$

$B \subseteq P_o$  は (対象) 概念である  $\Leftrightarrow \omega \circ \alpha(B) = B$



## 概念束の基本性質

- $\mathcal{A}$  と  $\mathcal{O}$  を次のように定める：

$$\mathcal{A} = \{\alpha \circ \omega(A) \mid A \subseteq P_a\} \quad (\text{属性概念の集合})$$

$$\mathcal{O} = \{\omega \circ \alpha(B) \mid B \subseteq P_o\} \quad (\text{対象概念の集合})$$

- このとき、概念束 concept lattice  $(\mathcal{A}, \subseteq) / (\mathcal{O}, \subseteq)$  について以下の定理が成り立つ。
  - ふつうは以下の定理に基づいて、概念を属性概念と対応する対象概念の組とし、二つの概念束を「重ね合わせる」（詳細は次ページの例を参照）。

### Theorem 3.5 (Wille)

- 1  $(\mathcal{A}, \subseteq)$  は  $P_a$  を最大元とする完備束
- 2  $(\mathcal{O}, \subseteq)$  は  $P_o$  を最大元とする完備束
- 3  $(\mathcal{A}, \subseteq)$  と  $(\mathcal{O}, \subseteq)$  は反同型。

- 1 と 2 の証明は、 $(\alpha, \omega)$  がガロア接続であり、それゆえ  $\alpha \circ \omega / \omega \circ \alpha$  が閉包作用素であることにより与えられる。
- 伝統的な概念論における「内包と外延の反比例」をよく体現している。

例 ([SM2007], p. 104)

表 1.1 コンテキスト表

	$a$	$b$	$c$	$d$	$e$
1		×			
2		×	×		×
3	×	×	×		×
4	×		×	×	
5		×	×	×	×

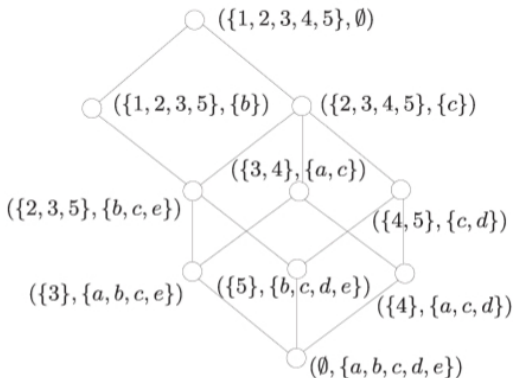


図 1.3 コンセプトラティス

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## 情報系 information system

- ドメイン理論における基本概念のひとつ.
- 情報系：次のような三つ組  $\underline{A} = (A, Con, \vdash)$  のこと.
  - $A$  : トークンの集合
  - $Con$  : 無矛盾性述語 (ただし  $Con \subseteq Fin(A)$ )
  - $\vdash \subseteq Con \times A$  : 帰結関係

- $Con$  と  $\vdash$  の公理 :

1  $X \subseteq Y \ \& \ Y \in Con \Rightarrow X \in Con$

2  $a \in A \Rightarrow \{a\} \in Con$

3  $X \vdash a \ \& \ X \in Con \Rightarrow X \cup \{a\} \in Con$

4  $a \in X \ \& \ X \in Con \Rightarrow X \vdash a$

5  $\forall b \in Y (X \vdash b) \ \& \ Y \vdash c \Rightarrow X \vdash c$

- $Con$  は下のような具合で無限集合を含むように拡張できる :

$$X \in Con \Leftrightarrow \forall Y (Y \subseteq_{\text{fin}} X \Rightarrow Y \in Con)$$

## 情報状態 information state

- $F : Con \rightarrow Con$  を次のように定める (ここでの  $Con$  は拡張されたもの) :

$$F(X) = \{a \mid \exists Y (Y \subseteq_{\text{fin}} X \ \& \ Y \vdash a)\}$$

- $F(X)$  なる形の集合を「 $\underline{A}$  における情報状態」と言う.
- 基本的性質 :
  - $F(X) \in Con$
  - $\forall a \in A (F(X) \vdash a \Rightarrow a \in F(X))$

### Theorem 4.3 (Scott)

$\underline{A}$  を情報系とし,  $S$  を  $\underline{A}$  の情報状態からなる集合とする. このとき,

- 1  $(S, \subseteq)$  はスコットドメイン (有界完備かつ代数的な cpo) である.
- 2 任意の  $(D, \sqsubseteq)$  をスコットドメイン (スコットドメイン)  $(D, \sqsubseteq)$  について, 適当な  $(S, \subseteq)$  が存在し  $(D, \sqsubseteq) \cong (S, \subseteq)$  である.

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## Chu 空間と FCA

- FCA と Chu 理論は（ほぼ）同じ研究対象から始まったが、関心の相違から別々の方向に進んでいる：
  - FCA：「表」の内側にある構造（概念系）
  - Chu 理論：複数の「表」のあいだの関係
    - Chu 理論は圏論に起源をもつ。
- より正確には、Chu 理論の研究対象はより一般的な行列構造であり、FCA と合流するのはその一部（2 値 Chu 空間）。
- Example 3.6：Chu 写像は概念を保存しない（Chu 写像はそのままの形では「情報保存的な」写像としてかなり不十分なところがある）。

## Example 3.6

$P$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	

$Q$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	×

- 反例：上のような Chu 空間  $P, Q$  を考え  $f: P_a \rightarrow Q_a$  と  $g: Q_o \rightarrow P_o$  を

$$f(x) = x \quad (x \in P_a)$$

$$g(y) = 1 \quad (y \in Q_o)$$

と定義する.

- このとき,  $(f, g)$  は  $P$  から  $Q$  への Chu 写像ではあるが, 概念を保存しない.



### Example 3.6 (続)

$P$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	

$Q$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	×

■ Chu 写像性 :  $\forall x \in P_a \forall y \in Q_o (g(y) \models_P x \Leftrightarrow y \models_Q f(x))$

( $\Rightarrow$ )  $y \models_Q f(x)$  すなわち  $y \models_Q x$  であることを示せばよいが,  $Q$  の表をみればどの対象もすべての属性もつので OK.

( $\Leftarrow$ )  $g(y) \models_P x$  すなわち  $1 \models_P x$  であることを示せばよいが,  $P$  の表をみれば対象 1 はすべての属性をもつので OK.

### Example 3.6 (続)

$P$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	

$Q$	$a$	$b$
1	×	×
2	×	×

- 概念の非保存性：

$$\begin{aligned}\alpha_P(\omega_P(\{a\})) &= \alpha_P(\{o \mid \forall y \in \{a\} (o \models_P y)\}) \\ &= \alpha_P(\{o \mid o \models_P a\}) \\ &= \alpha_P(\{1, 2\}) \\ &= \{a \mid \forall x \in \{1, 2\} (x \models_P a)\} \\ &= \{a\}\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\alpha_Q(\omega_Q(\{a\})) &= \alpha_Q(\{o \mid \forall y \in \{a\} (o \models_Q y)\}) \\ &= \alpha_Q(\{o \mid o \models_Q a\}) \\ &= \alpha_Q(\{1, 2\}) \\ &= \{a \mid \forall x \in \{1, 2\} (x \models_Q a)\} \\ &= \{a, b\}\end{aligned}$$

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## Chu 空間と情報系

- Chu 空間  $P = (P_o, \models_P, P_a)$  をもとに,  $(A_P, Con_P, \vdash_P)$  をつくる :

$$\begin{aligned}A_P &= P_a \\Con_P &= \wp(P_a) \\X \vdash_P a &\Leftrightarrow \forall x \in P_o (x \models_P X \Rightarrow x \models_P a)\end{aligned}$$

$$\text{※ } x \models_P X \Leftrightarrow \forall b \in X (x \models_P b)$$

- このとき,  $(A_P, Con_P, \vdash_P)$  は情報系である. (Theorem 4.6)
  - 公理を満たすことを順次確認していけばよい.

## 1 登場人物

- Chu 空間
- 形式概念分析 (FCA)
- 情報系と情報状態 (from ドメイン理論)

## 2 三者の関係

- Chu 空間と FCA
- Chu 空間と情報系
- 情報状態と概念

## 情報状態と概念

### Theorem 4.7

$P = (P_o, \models_P, P_a)$  を  $P_a$  が有限集合であるような Chu 空間とする。このとき、

$X \subseteq P_a$  は概念  $\iff X$  は  $(A_P, Con_P, \vdash_P)$  の情報状態

### Lemma 4.5

$X \in Con_P, a \in A_P$  について、

任意の  $X \vdash_P a \iff a \in \alpha_P \circ \omega_P(X)$

$$\begin{aligned} X \vdash_P a &\iff \forall x \in P_o (x \models_P X \Rightarrow x \models_P a) \\ &\iff \omega_P(X) \subseteq \omega_P(\{a\}) \\ &\iff \alpha_P \circ \omega_P(\{a\}) \subseteq \alpha_P \circ \omega_P(X) \\ &\iff a \in \alpha_P \circ \omega_P(X) \end{aligned}$$

## 情報状態と概念

### Theorem 4.7

$P = (P_o, \vdash_P, P_a)$  を  $P_a$  が有限集合であるような Chu 空間とする. このとき,

$X \subseteq P_a$  は概念  $\iff X$  は  $(A_P, Con_P, \vdash_P)$  の情報状態

[ $\Rightarrow$ ]  $X$  の  $\vdash_P$  閉性を確認すればよい. ( $X \in Con_P$  は自明.)

$$\begin{aligned} X \vdash_P a &\Rightarrow a \in \alpha_P \circ \omega_P(X) \quad \cdots \text{Lemma 4.5} \\ &\Leftrightarrow a \in X \quad (\because X \text{ は概念}) \end{aligned}$$

[ $\Leftarrow$ ]  $\vdash_P$  閉性より,

$$\begin{aligned} \forall a \in P_a (X \vdash_P a \Rightarrow a \in X) &\Leftrightarrow \forall a \in P_a (a \in \alpha_P \circ \omega_P(X) \Rightarrow a \in X) \quad \cdots \text{Lemma 4.5} \\ &\Leftrightarrow \alpha_P \circ \omega_P(X) \subseteq X \end{aligned}$$

$(\alpha_P, \omega_P)$  はガロア接続であるから  $X \subseteq \alpha_P \circ \omega_P(X)$ . よって  $X = \alpha_P \circ \omega_P(X)$ .

## 情報状態と概念

- 情報系  $\underline{A} = (A, \wp(A), \vdash)$  から Chu 空間を構成する：

$$\begin{aligned}P_o &= \underline{A} \text{の情報状態の集合} \\ P_a &= A \\ x \models a &\Leftrightarrow a \in x\end{aligned}$$

- 内包操作と外延操作：

$$\begin{aligned}\omega(Y) &= \{x \mid \forall y(y \in Y \Rightarrow x \models y)\} = \{x \mid Y \subseteq x\} \\ \alpha(X) &= \{a \mid \forall x(x \models a \Rightarrow a \in x)\}\end{aligned}$$

- 概念の要件： $\alpha \circ \omega(Y) = \{a \mid \forall x(Y \subseteq x \Rightarrow a \in x)\} = Y$ 
  - これは  $Y$  が  $\underline{A}$  の情報状態であることに等しい。



## 有限性条件について

### Theorem 4.7

$P = (P_o, \models_P, P_a)$  を  $P_a$  が有限集合であるような Chu 空間とする。このとき、

$X \subseteq P_a$  は概念  $\iff X$  は  $(A_P, Con_P, \vdash_P)$  の情報状態

- 無限の場合を考えると、情報状態と概念は必ずしも一致しない。
- 背景：情報状態の束と概念束の違い
  - 情報状態束：スコットドメインを形成し、それゆえ代数的。
    - $a \in D$  がコンパクトである  $\iff \forall X \in \text{Dir}(D) (a \sqsubseteq \bigsqcup X \Rightarrow \exists x (x \in X \ \& \ a \sqsubseteq x))$
    - $\text{cpo}(D, \sqsubseteq)$  が代数的である  $\iff \forall d \in D \exists X (X \in \text{Dir}(D) \ \& \ \forall x (x \in X \Rightarrow \text{Compact}(x)) \ \& \ d = \bigsqcup X)$
  - 概念束：完備束であるが必ずしも代数的ではない。





## 参考文献

- [BS1997] J. Barwise & J. Seligman, *Information Flow: the logic of distributed systems*, Cambridge UP, 1991.
- [DP2002] B. A. Davey & H. A. Priestley, *Introduction to Lattices and Order* (2nd ed.), Cambridge UP, 2002.
- [GW1999] B. Ganter & R. Wille, *Formal Concept Analysis*, Springer, 1999.
- [SM2007] 鈴木治&室伏俊明, 「形式概念分析: 入門・支援ソフト・応用」, 『知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌)』, 19:2, pp. 103-142, 2007.
- [Zhang2004] G-Q. Zhang, 'Chu Spaces, Concept Lattices, Domains', *Electronic Notes in Theoretical Computer Science*, 83, 2004.